

忘れ去った記憶と淡い思い出

宇敷 辰男

去年、友達三人と紅葉の季節に琵琶湖から古都を旅して、興味深い歴史ある寺を訪ねた。

湖東の米原で車を借りて、聖徳太子が百済人のために創建した、湖東三山の百済寺ひゃくさいじに着いた。回遊式庭園の池に、明るい日射しを浴びた真紅や橙色や黄色の紅葉が映っていた。

近江八幡に近い阿育王山あしよおうざん・石塔寺いしとうじは聖徳太子の開基である。インド亜大陸にあったマウリア帝国のアショーカ王が、仏舎利を納めた八万四千のストウーパを造り、その一基が埋まっていたとされる場所である。石垣の上に高い石塔や、おびただしい数の石柱や石仏が並んでいた。その中で一本の万両が赤い実を付け色づいていた。

天智天皇ゆかりの寺で七世紀に創建された園城寺おんじょうじは、天智・天武・持統の三天皇の産湯に用いた泉があり三井寺みいでらと呼ばれている。家康が寄進した三重塔が建ち、並ぶ木立が黄色や橙色に染まっていた。

二十五〜六年前、妻と琵琶湖を巡ったことを思い出した。近江八幡の和菓子と琵琶湖特産の鮎寿司に出会った憶えがある。

鮎寿司は独特の匂いと味で、好きになる人と無理な人に分れると聞いていた。その頃香港でドリアンに挑戦した経験があった。当時ドリアンは大閩朝潮の靴下が腐ったような匂いと言われたが私は大丈夫だった。ならば鮎寿司もと思い挑戦した。結果は駄目だった。

旅から帰って見ると、妻と巡った時の案内書が残っていて、近江八幡の和菓子店のパンフレットが家にあった。肩に喰い込む天秤棒の重荷に耐え、江戸から明治時代全国を行商して回った近江商人。その豪商の街が培った、和菓子の由緒が載っていた。あと園城寺・三井寺の案内書があるではないか！。由緒ある寺を訪ねたことを全く憶えていなかった。年を重ねて淡い思い出と忘れ去った記憶があることを自覚した。

今年、妻と再び思い出の和菓子店を訪ねたらパンフレットが無くなっていて。ネットのサイト検索だけになっていて、忘れ去ったことを自覚するのが難しい時代になったような気がした。